

「室内に気候を創る」

銅の放射冷暖房システム

いまや街頭からレストランまであちこちが禁煙ス。ペースだらけ。やっとなバコの吸える喫茶店を見つけても、モクモクと煙りのたちこめたガラス張りの空間に押し込まれる始末…。そんな愛煙家に救世主となるカフェが、東京目黒にある。それが「norsk cafe(のるすくカフェ)」だ。

まったく間仕切りのないレイアウトで、愛煙家と嫌煙家が同じ空間で寛ぐことができる。しかも、それを実現しているのが、銅管・銅線を使った見た目もユニークな放射冷暖房システムだ。早速、このカフェを創った設計施工集団「のるすく」のアトリエを訪ねてみた。



無垢の木をふんだんに使ったカフェに、銅管のパーティションが美しく調和する

『のるすく』価値観から広がる銅のユニークな活用方法

ア トリエのドアを開けると、そこには銅

を使った美しいパーティションが。「銅の素材感って、どこかほっとしますよね」そう笑顔で迎えてくれたのは、「のるすく」の代表取締役で建築家の北田たくみ氏。北田氏は、無垢の木をはじめ、素材そのものの味わい、機能を活かした家具や建築にこだわり続けている。「住まいや家具は、それを使う人と長く生活を共にできるものがいい。自分の手で磨いたり、外気や太陽の光を気にしてあげたり、ちよつと手間を掛けてあげるくらいのものがいい。その方が愛着がわき、同じ時をゆつくりと過ごしていけます」。このひと手間を楽しむ感覚が『のるすく』価値観であり、程よく手入れを楽しめる銅という素材は、北田氏の中でいま最も注目すべき素材となっている。

「銅は、見た目の美しさや加工性、耐久性などはもちろんですが、熱伝導率の良さ、さらに抗菌性・殺菌作用と、機能的にも優れた素材です。最初は、手摺やドアノブなどに使っただけでしたが、いまはインテリアとしても活かせる冷暖房システムに発展させています」。その一例が、今回、我々が注目した放射冷暖房システムだ。では、どういったシステムなのか、『のるすくカフェ』で、その実物を拝見させていただくことにした。



複雑に編み上げられた銅線が銅管を包む



空気の浄化と冷暖房機能を持つ銅のパーティション



さり気なく配置された天井の排気ダクト



喫煙席にはインテリア感覚の集煙器が

カ

フェに採用されている分煙の仕組みを説明しよう。まず屋外の新鮮な空気を約30mのダクトから天井内に引き込み、

エアコンで適切な温度にする。その空気を店内の特殊給気ダクトから、少しずつ禁煙席側へと移動させていく。つまり室内に穏やかな『空気の流れ』を創り出しているのだ。喫煙席には、お洒落な集煙器と、天井に大きな排気ダクトボックスがあり、ゆるやかに立ち上った紫煙は、いつの間にかここに吸い込まれていく。しかし、これだけでは室内環境を快適に保つことはできない。そこで活躍するのが、ユニークな形状の銅のパーティションだ。

「なかなか綺麗でしょう。銅管の周りに、複雑に編み上げた銅線を配しているんです。でもこれは、デザイン性だけではなく、銅と空気が触れあう表面積を広げる目的を持っています」。このパーティションを空気が通ること、銅の殺菌作用により室内空気の浄化が自然に行われていく。さらに、エアコンで暖めたり、冷やした空気や水を銅管の中に巡らせ、室温調整も行っているのだ。あたかもインテリアのように店内各所に配置された銅のパーティションが、空気の浄化と冷暖房機能の二つを同時に満たしていた訳だ。「僕は、今後これを病院や公共施設のヒーティングベンチなどにも取り入れようと考えています。人が直接触れる箇所であるほど、銅の殺菌性は活かせるはずです」。確かにいま病院をはじめ高齢者施設、学校などで、銅の殺菌性を活かすアイデアが期待されているが、このシステムならさらに新しい用途にも広がっていくそうだ。